

(仮称) 高山こども園創設に係る説明会

- 1 開催日時 平成25年2月7日(木) 9:30~11:00
- 2 開催場所 高山幼稚園リズム室
- 3 出席者 (事務局) 峯島教育総務部長、真銅教育総務課長、伊東教育指導課長、
平田学校給食センター所長、吉岡教育総務課課長補佐、
浅井教育指導課課長補佐
池田福祉健康部長、吉川こども課長、奥田こども課長補佐、
水野こども課長補佐
(高山幼稚園) 山本園長
(北倭保育園) 井藤理事長

(山本園長、事務局)

【挨拶】

(事務局)

【出席者紹介】

(事務局)

【説明】

4 主な質疑内容

参加者：パンフレットの4ページの説明の中の「いろいろな遊び」というのは、今までやっていた幼稚園主体のこともしていただけるということか。

事務局：幼稚園と保育園もやっていることはほとんど変わらない。幼稚園の教育、保育園の教育というのではなく、現在の高山幼稚園で行っているようなことを生かしていくということである。

参加者：長時間利用児と短時間利用児はクラスが別になると思っていた。クラスが一緒だと保育参観はどうなるのか。

事務局：現時点では未定だが、これからの話し合いで決めていきたい。参観がなくなるということはないが、回数などについてはまだこれからである。

井藤理事長：現在、北倭保育園では随時参観を行っている。

参加者：いろんなことがこれからということだが、最初に決めてからの提案でないか、賛否がとれないのではないか。

事務局：現時点では決められないこともあるが、今後保護者の意見も聞きながら進めていきたいと考えている。

参加者：小学校の保護者説明会にも参加した。園児の減少ということを言われるが、調整区域を何とかしないと人口が増えないのではないか。高山地区は、親と同居するかここに土地があるかでないと入ってこられない。せっかくいいものを作っても他地区からは入ってこられないので、そこを考えないといけないと思う。

事務局：マンションや一戸建てを建てられるようにすると人口は増えると思うが、調整区域、市街化区域を設けているのは、まとまりのあるまちづくりをするための方策の一つである。市街化区域になると、駅の近くなら開発も進むが、実際には税金だけが高くなって開発は進まないという事態も考えられる。また、市がかってに市街化するということはできず、住民の意見や開発する業者があることも必要である。

参加者：スーパースクールゾーンを作って、何年ぐらいこの状態を保てるのか。

事務局：将来的な展望はわからないが、施設の存続ということから見た場合、幼稚園、保育園を単独で建てるより、この流れを食い止めることにおいてこども園のもつ意義は大きいと思っている。

参加者：先程の説明は園児が減るので施設を一つにしないとコミュニティーが崩壊するという意味なのか。

事務局：現実の話として、園児が減ると統合も必要になってくるということである。人数が少なくなって子どもの育ちを考えていった場合、実際にそういうことが起こりうるということを申し上げたつもりである。

参加者：保育料は、今後も公立幼稚園と変わらないのか。

事務局：20年、30年後のことまで確約できないが、当分の間は変わらない。国の案では短時間利用についても所得に応じて保育料を決めることになっているが、差額は市が補填し変わらないようにする。

参加者：民間だと運営の関係で保育料に手をつけていくと思うが、市は保障してくれるのか。

事務局：高山こども園については、幼稚園からの移行ということで、短時間利用（幼稚園部分）については他の公立幼稚園と同じ保育料である。また、長時間利用（保育園部分）については所得に応じて決まっている。
通園バスも続けていただき、今の高山幼稚園と同じような対応でやっていきたい。

参加者：長所ばかり言っているが、課題についても聞きたい。

事務局：一体になって規模が大きくなると、安全性など子どもとの関わりの中で心配なこともあるが、職員が細かく見ていくことで大丈夫だと思っている。
保育園の部分は、北倭保育園がしっかりとやっていただいていると思うが、今、高山幼稚園で行っている教育との整合性をいかにとっていただくか、幼稚園の部分はこれから開設までの間に北倭保育園にも勉強していってもらわなければならないと思っている。
また、いろいろな懸念についてはみなさんからも出していただき、それに応えていきたい。

参加者：高山幼稚園の先生が、高山こども園で働くことはないのか。

事務局：こども園になったときに、全く知らない先生ばかりになると子どもたちも不安になるし、保護者の不安もあると思う。
民間に移ることになるので市の正規職員が高山こども園に行くことはないが、例えば、今高山幼稚園に講師で来ている臨時職員の先生を雇用していただくとか、一緒になる前に交流をもって子どもどうしもお互いに知り合うなど、事前の準備を今から考えてスムーズに移行できるよう十分に検討していきたい。

参加者：途中から移行するのは不安なので、入園を決めるときに、教育方針や先生の数とか、詳しい内容を明らかにしていただけるか。

事務局：皆さんに合意いただいた段階で、具体的に北倭保育園ともつめていきたい。今は大枠だけが決まっている状況だが、今後北倭保育園や保護者等も入った懇話会を立ち上げ意見を聞いて課題について検討していきたい。

事務局：H29年4月にこども園に移行するとなると、H27年の4月に年少で入る子どもが年長になる時にこども園になるので、H27年の入園説明会、これはH26年の秋に行うが、それが一つの目途と考えている。そこでは詳細についても示していきたい。

参加者：今の段階で、どれくらいの大きさのものを考えているのか。
駐車スペース、グラウンドの大きさは。

井藤理事長：今考えているのは、300名程度の定員になると思うが、民間の幼稚園に通っている方も、公立と同じ条件でこども園に入れるということで、もう少し増えるかもしれない。場所も、県道から入れるようにして、スムーズに来られるような形をとりたいと考えている。

駐車場、グラウンドの大きさは、給食センターの建設が絡んでくるので具体的にはわからないが、2階建てにして、その分駐車場、グラウンドも大きくとりたいと考えている。

参加者：長時間利用児は、4、5歳児も昼寝は必ず必要なのか。

事務局：市内の保育園でも昼寝をしていない子もいる。保護者と話し合いながら園で決めてもらえると思う。

参加者：民営になって経営がうまくいかず、なくなってしまった場合はどうなるのか。

事務局：市としても高山こども園の経営を見守っていきたいし、存続できるようバックアップしていきたい。もし、そのような状況になったら、市が責任をもって対処する。

事務局：民間の保育園がなくなることは、他市でもわずかではあるが例はある。その場合は後の運営を行政がみている。

参加者：今、国道163号線の工事をしているが、通学路について市はそれも把握して考えているのか。

事務局：現在の北中の位置にこども園が建設されれば、例えばひかりが丘の子どもたちは高山製菓(株)の前を通ってきた方が早くなることも考えられるし、整備については市の土木課や事業計画課とも協議し安全対策に努めていきたい。県道については、所管が奈良県郡山土木事務所なので、163号線の改良とも合わせて

協議していきたい。

参加者：バスのエリアはどう考えているか。バスから徒歩に変わる人もいるのか。

事務局：基本的には今の高山幼稚園と同じように北倭保育園にお願いしようと思っているので、通園距離2km以上を基準に引き継いでいただきたいと考えている。また、民間になるのでそれ以上のサービスもしていただけるかもしれない。

参加者：高山幼稚園の耐震工事は、新しい建物になるまではどうなるのか。

事務局：法律では、幼稚園の場合、2階建以上で床面積500㎡以上の建物の耐震化を行うことが努力義務と規定されている。なばた幼稚園、壱分幼稚園は新耐震基準を満たしているので、これに該当するのは市内ではあとは生駒幼稚園のみで、生駒幼稚園は今年度耐震補強工事を実施した。

小・中学校に続き、幼稚園も計画的に耐震化を進めている。H25年度はあすか野幼稚園と俵口幼稚園の耐震補強、H26年度は生駒台幼稚園の改築、H27年度は（仮称）南こども園建設の予定である。一度にすべて行うことはできないため、計画的に実施しているのでご理解願いたい。

参加者：長時間利用児と短時間利用児は、クラスを分けるのか。

事務局：同じクラスである。

参加者：幼稚園と保育園のカリキュラムを近づけて、と言っているが、今、高山幼稚園では園児が帰った後に先生たちは次の日の教育内容の研究をしていると思う。実際に高山幼稚園と同じような教育内容を引き継いでやっていけるのか。人数が減ってくることによって、社会性が不足すると言っているが、年齢にあった教育に主眼をおくべきで、人数が多いことだけにポイントをおくのはおかしいと思う。例えば園外教育とかも保護者が声をかけるとか、親と一緒に動けるといっても人数が少ないからで、その方が細かく指導できるのではないか。

事務局：生駒市では、H23年度に幼保の統一カリキュラムを作り、H24年度から各園に配布し、それに沿って保育を行っている。3年前に幼稚園の教育要領、保育園の保育指針も改訂され、就学前の子どもたちが同じような教育を受けられるよう3～5歳児ではほとんど統一されている。

参加者：親のニーズが違うのに、同じ教室で一つになるというのは疑問が残る。

事務局：子どもは同じであり、保育園でも親に代わってする部分もたくさんある。保育園は保護者が働いているということでいろいろな子がいると思うが、だからと言って子どもたちの教育については変わることはない。

参加者：幼稚園では親がバックアップする機会が多かったが、保育園の保護者は働いているのでそれはできないと思う。クラスが一つになると幼稚園の保護者だけが活動しなくてはいけない状況もあるのではないか。

事務局：1クラスの人数は変わらないし、保育園には多くの先生がいるので、保護者がいなくても園外保育等も安全確認しながら実施している。

参加者：PTA活動はどうなるのか。幼稚園の親としては関わりたいが、幼稚園の親ばかり関わらなければならないのも嫌である。保育園の親は働いているので関われないと思うが。

事務局：他のこども園でも課題になっている点である。高山幼稚園はOB会やPTAのかかわりが深いので、今まで保護者に関わっていただいてやってきた部分が多いと思うが、既にこども園を運営している他市の例でも、活動の役割分担を決めてやっているように聞いている。今すぐに的確な答えはできないが、PTA活動のよい事例や今後の参考になるようなことがあれば示していきたい。

事務局：園に任せるのではなくて、保護者や行政も関わっていいものを作っていくという趣旨なので、幼稚園の保護者も保育園の保護者もお互いに立場を理解しながら作っていくものだと考えている。

井藤理事長：いろいろ考えていただいてありがたい。幼稚園と保育園の良いところを合わせてこども園にしたいと思っている。今は、幼稚園の行事、保育園の行事もホームページ等で見ると同じような行事をやっていると思う。幼稚園ではいろいろな行事に保護者が参加していただいているのは頼もしいなと感じているし、保育園では土・日を利用してカバーしていただいている。また、保育園は保育士の数が多いので手の空いた職員が行事を手伝っている。

これからこども園について徐々に組み立てていくわけだが、皆さんの貴重な意見や懇話会での議論を聞かせていただいて、良いこども園にし、伸びていく子を育てたいと思うのでよろしくお願ひしたい。